

## 基本計画（素案）に係る審議会における主な御意見・議論等（平成29年12月21日時点）

※第7回総合計画審議会（H29.12.21）終了時点

※修正・追加箇所は、色枠・下線部分

分類	No.	主な御意見・議論等	考え方（案）	資料30 反映箇所
<b>全体に関わる御意見</b>				
全体	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民目線で見ただけの場合、活動内容が名称だけではわかりにくいものがある。用語集に解説を入れるなど、表現方法を検討すべき。</li> <li>・固有名詞に「」（かぎかっこ）をつけることで趣が変わると思う。市民によりわかりやすくなるよう、表現方法を検討すべき。</li> </ul>	御意見を踏まえ、必要に応じて、用語集に解説を追加します。また、市民によりわかりやすく示せるよう、全体の表現を統一するなど、適宜、「現状と課題」、「施策」、「施策指標」の文言を修正します。	適宜修正
施策	2	総合計画では大きな方向性を示し、より具体的な内容は個別計画に示している、ということであれば、そこに誘導するような表現を盛り込んでも良いのではないかと。	個別計画への誘導として、基本計画（素案）に「関連する主な個別計画」欄を設けています。	—
指標	3	参加者数などの活動指標を示されても、それが多いのか少ないのか分からない。指標に挙げている理由は何かと。	参加者数などの活動指標でも、施策の成果を実現するための取組の方向性や内容等が示せるものを設定しています。	—
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現に実施している施策の取組から「施策指標」を考えることは妥当か。10年間の計画期間中に有効な取組が変わることも考えられるが、現に把握できていることに指標を限定することで、新たな取組を進めることが制限されるのではないかと。</li> <li>・必要に応じて、より適切な指標への変更等も考えられるのであれば、この施策にはこの指標のみ、と限定的に捉えられないよう、指標の示し方に工夫が必要ではないかと。</li> </ul>	「Ⅳ.基本計画推進のために」において、状況の変化や取組の進捗状況により、必要に応じてより適切な指標に変更等を行うことや、施策指標だけで施策全体の成果や取組内容を示すことは困難であるため、行政評価の際には指標以外の観点からも評価を行うことを示す予定です。	—

分類	No.	主な御意見・議論等	考え方（案）	資料30 反映箇所
指標	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指標は全て数値目標になっている。数値化できないものについては、例えばどんな支援をすとか、考え方や文章で表記することもあり得るのではないか。</li> <li>・現状値と目標値として両方に数値を示すのではなく、現状値から向上、という形で目標を示しても良いのではないか。</li> <li>・「数値目標が望ましい」など言われるが、数値に表せない思いや考え方はどのように反映するのか。</li> </ul>	<p>毎年度、行政評価により、施策の成果及び進捗状況を把握・分析する観点から、数値目標が望ましいと考えます。また、数値で表せない思いや考え方については、個別・具体的な内容であれば、個別計画で示すこととなりますが、方向性や概念が読み取れない場合は、施策の文章で表していく必要があると考えます。</p>	—
	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年数字を取ることができない「介護サービスに対する満足度」を、指標に設定して良いのか。</li> <li>・市民意識指標を別に設定しているが、施策を評価するのに適切であれば、満足度のような市民意識であっても、指標に設定して良いのか。</li> </ul>	<p>「市民意識指標」は、4年に1回の調査であること、また、施策よりも大きなレベル（政策など）の指標であることから、「施策指標」とは別に整理しています。施策指標は行政評価に活用するため、行政の取組の成果や進捗状況が確認でき、できる限り毎年把握できるものを設定することとしています。しかし、毎年把握できないものや市民意識を測る指標であっても、施策の評価に最適と考えられる指標であれば設定可能と考えます。</p> <p>市民意識指標は、政策レベルのものも含めて市民の意識や満足度などの側面から取組の成果を把握・分析するものとして設定し、施策指標と併せて基本計画の進行管理に活用します。</p> <p>上記の考え方を踏まえ、「Ⅳ.基本計画推進のために」の中で、各指標の位置付けや進行管理の考え方等を示す予定です。</p>	—
市民意識 指標	7	<p>政策のレベルでみる「市民意識指標」を「施策指標」の中に入れることは難しいとしても、市民の意識と「施策指標」を関連付けられるような工夫はできないか。</p>	<p>上記の考え方を踏まえ、「Ⅳ.基本計画推進のために」の中で、各指標の位置付けや進行管理の考え方等を示す予定です。</p>	—
指標	8	<p>施策指標の目標年次が示されているものと、示されていないものがある。</p>	<p>御意見を踏まえ、施策指標の「目標」欄に目標年次を示します。なお、原則として目標年次は第4次総合計画の最終年次となりますが、それより前に達成すべき目標を施策指標に設定している場合は、目標値の下に目標年次を示しています。</p>	<p>施策指標 【目標】欄</p>

分類	No.	主な御意見・議論等	考え方（案）	資料30 反映箇所
指標	9	<p>・目標の考え方として、人口減少により増加の一途は難しいと考えれば、全市民に対しての「割合」の方が無理なく指標として設定できるのではないかと。絶対数よりも割合の方が意味があるという考えもある。</p> <p>・参加者数等の指標は割合で見た方がよいのでは、という意見だが、指標をどのように示すにしても、指標に対する考え方を聞かれた時に、今までの傾向などを根拠に説明できるようにしてもらえばよい。</p>	<p>施策の取組の成果や進捗状況を評価するに当たり、一人でも多くの方に参加してもらうことが重要であるなど、「割合」ではなく「絶対数」を測るほうが良い指標があります。また、指標によっては分母とすべき数字の把握が困難なことから「割合」で示すことが難しいものがあるため、施策の取組を適切に評価できる指標を設定することが必要であると考えます。指標の分析に当たっては、例えば、参加者数であれば、どのような手法で増やしたのか、参加者の年齢層に偏りがなかったのか、などといったことを毎年の行政評価で分析していくことが重要であると考えます。</p>	—
	10	<p>そもそも達成するのが難しいというニュアンスがある指標の場合は、類似団体のデータ等を入れ込んで考えられないか。</p>	<p>他市との比較を書き込むことで本市の特徴や水準を示すことができると思いますが、他市との比較等を全体にわたって書き込み過ぎると、詳細すぎる内容になり、かえってわかりにくくなる懸念があります。</p> <p>また、行政評価の中では、他市との比較や、指標の達成が困難な場合は何が原因で達成できないのかななどを、しっかり分析する必要があります。総合計画の中に詳細な情報を盛り込むことは難しいですが、進行管理する中では、分析内容をしっかり情報提供できるよう対応していきたいと考えています。</p>	—
その他	11	<p>「現状と課題」では、道路、水道、下水道、交通の順に記載されているが、「施策」では、交通が2番目に来ている。記述の並びが異なっていることに何か意図があるのか。</p>	<p>「施策」の並び順を「現状と課題」の記述順に修正します。</p>	<p>P.6 施策・指標 P.20 施策・指標 P.32 施策・指標 P.40 施策・指標</p>

分類	No.	主な御意見・議論等	考え方（案）	資料30 反映箇所	
<b>大綱1【人権・市民自治】</b>					
平和と人権を尊重するまちづくり 政策1	現状と課題	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝鮮半島の情勢が緊迫している状況について、「現状と課題」において言及するべき。</li> <li>・世界情勢の先行きが不透明であり、一般的な平和や反戦反核に関する言説だけでは不十分。表現を検討すべき。</li> </ul>	昨今の世界情勢などを考慮し「現状と課題」を修正します。	P.3
		13	人権に関して後ろ向きな記述が多いが、人権擁護の拡大など前向きな動きに関する内容について補強すべき。	近年の人権に関する動向を考慮し「現状と課題」を修正します。	P.3
	111 指標	14	<p>【市民平和のつどいへの参加者数】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会場の許容人数に対して100%を動員したとしても5,000人程度であり、本市人口に対する比率は低く、啓発が十分とは考えにくい。</li> <li>・参加者数で啓発の効果、市民意識への浸透が測れるのか。</li> <li>・後世に伝えるのが目的ならば、単なる参加者数ではなく世代別の参加率などを指標とすべき。</li> </ul>	より多くの市民を対象に啓発を行うことが重要であるとの観点から、指標を「平和祈念資料館の利用者数」に変更します。	P.4 指標111
	113 施策	15	多様な性があるので「男性も女性も」という表現は工夫すべき。	多様な性があることに留意し「性別にかかわらず」と表現を修正します。	P.4 施策113
	113 指標	16	<p>【審議会などの委員における女性の割合】</p> <p>女性の割合よりも世代のバランスが重要では。</p>	男女共同参画の推進に係る取組を測る指標としては女性の割合が適するものと考えます。また、審議会などの委員における世代のバランスは主に施策121「市民参画・協働の推進」に係る事項と認識しています。	—

分類	No.	主な御意見・議論等	考え方(案)	資料30 反映箇所
平和と人権を尊重するまちづくり 政策1	113 指標	<p>【審議会など委員における女性の割合】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各審議会などの特性に応じた男女比があると考えられ、50%にすることが必ずしも適切ではない場合もあるのではないか。</li> <li>審議会委員については、男女比よりも、その審議会の内容に適した人を選ぶ視点が重要ではないか。</li> <li>「行政内部で男女協同参画を率先してやっているから、吹田市内の企業や団体も男女協同参画でやっていこう」というような指標は考えられないか。</li> </ul>	<p>行政が率先して男女共同参画に取り組む姿勢を示すべきというご意見を踏まえ、「市職員の管理職(課長代理級以上)における女性の割合」に変更します。</p>	P.4 指標113
		<p>【交際相手からの暴力(デートDV)に関する啓発講座の市内中学校における実施校数】</p> <p>中学生を対象とした学習活動であることがわかる表現にすべき。</p>	<p>対象が中学生であることがわかるよう「交際相手からの暴力(デートDV)に関する中学生を対象とした啓発講座の実施校数」に修正します。</p>	P.4 指標113
		<p>【交際相手からの暴力(デートDV)に関する啓発講座の市内中学校における実施校数】</p> <p>男女共同参画の指標としては、デートDVに関する啓発講座よりも、育児休業取得率などを挙げるべき。</p>	<p>ワークライフバランスの実現に向けた環境づくりの取組を行っていく必要があると認識しており、本市では、啓発や相談を進めています。一方、育児休業取得率の向上など、企業のワークライフバランス実現への取組については、国の制度や方針に大きく影響されるため、市の取組の成果を測る指標としての設定には至っていません。</p>	—
市民自治に政策2 りよ策る2 まちづく	121 指標	<p>【市ホームページの1ヶ月あたりの閲覧者数(年間平均)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>閲覧数だけでは、情報公開、市民の知る権利の保障についての評価ができないのでは。</li> <li>積極的に情報を発信しようという方針ならば、閲覧数ではなくどれだけ情報を発信したかを指標とするべき。</li> <li>基本計画の指標にするほど重要か。市民意識指標にある「市報すいた、ケーブルテレビ、ホームページなど、市が発信する情報に満足している市民の割合」の方が良いのでは。</li> </ul>	<p>情報公開制度の円滑な運用や市民の知る権利の保障のためにも情報提供の充実は重要であり、市ホームページを活用した積極的な情報発信に取り組む必要があることから、指標として設定しています。また、発信した情報の量や質についての指標の設定は困難と考えます。</p> <p>また、「市報すいた、…、市が発信する情報に満足している市民の割合」は市民意識指標として設定しており、施策指標と市民意識指標を併せて評価に活用することを想定しています。</p>	—

分類		No.	主な御意見・議論等	考え方（案）	資料30 反映箇所
市民自治 政策2 よるまちづくり	123 指標	21	<p>【自治会加入率】 なぜ連合自治会ではなく単一自治会の加入率を指標とするのか。</p> <p>※関連意見 指標 211「連合自治会単位での自主防災組織結成率」 指標122では単一自治会の加入率が扱われているが、自主防災組織などの活動は連合自治会単位で行われている。もう少しつながりがあった方がよいのでは。</p>	コミュニティの希薄化が懸念される中、まずは隣近所をつながりをつくっていただくことが重要なため、単一自治会の加入率を指標としています。	—
		22	<p>【自治会加入率】 自治会加入率の目標値が60%というのは低いのではないか、目標値設定の根拠は。</p>	目標値60%は、10年前の加入率をもとに考えています。高ければ高いほうがよいが、まずは10年前の水準をめざす考え。加入率が下降傾向にある中での急回復は難しいと考えます。	—
		23	<p>【コミュニティセンターや市民センターなどコミュニティ施設の年間利用件数】 今後、集約化などによる施設数の減少も考えられるため、利用件数よりも稼働率を指標に設定すべき。</p>	コミュニティの活性化に向けた取組の評価には、コミュニティ施設の利用の増減が直接わかる利用件数がより適すると考えます。	—
		24	<ul style="list-style-type: none"> <li>吹田市は地域の自主的な活動があり市民力が高いと言われるが、その現状を測る指標があれば、市民の努力するべきことが考えられるのでは。</li> <li>自治会や市民団体の活動の現状とその充実への指標、活動の場づくりの現状とその実現への指標など、何か工夫はできないか。</li> </ul>	「地域における活動の現状」といった質的な内容を指標とすることは困難と考えます。	—

分類	No.	主な御意見・議論等	考え方（案）	資料30 反映箇所	
<b>大綱2【防災・防犯】</b>					
災害に強く安心して暮らせるまちづくり 政策1	211 施策	25	災害時には、市民に情報をいち早く知らせることが重要であり、そうした表現がもう少しあっても良いのではないか。	市民への情報伝達の重要性は認識しており、施策211の「情報伝達体制などの強化」には、市民への情報伝達を含んでいます。	—
		26	「BCP（業務継続計画）」、「業務継続マネジメント」という表現は市民にとってわかりにくい。もう少し平易な表現にする必要があるのではないか。	巻末の用語集に記載します。 「BCP：災害や事故発生時でも、重要業務をなるべく中断させず、中断してもできるだけ早急に復旧させるため、業務の執行体制や対応手順、必要な資源の確保等をあらかじめ定める計画。Business Continuity Planの略。」	—
		27	指標に「各種団体との防災協定締結数」を設定しているが、民間の施設には、水害発生時の避難所等に活用できるところが相当ある。防災協定の締結を積極的に進めていく必要があることを、具体的に触れているところがない。	防災協定の締結は、関係機関との連携強化につながるものと考えており、協定締結数の増加を目指し取り組んでいます。 施策に具体的な内容を追加するため、施策211「関係機関と連携し、情報伝達体制などの強化を図ります。」を、「防災協定の締結などを含む関係機関との連携を進め、情報伝達体制や災害対応力などの強化を図ります。」に修正します。	P.8 施策211
	211 指標	28	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種団体との防災協定締結数について、現状値の55件が少ないのか多いのかわからない。また、目標値の100件も妥当なのかわからない。</li> <li>55件の防災協定締結数は少なくはなく、100件を目指すというのは大きな目標である。人口が100万人を超える仙台市では、災害を経験したことで170件ほどまで増えているが、以前は100件程度であり、人口規模を考えると、目標値としては妥当と感じる。</li> </ul>	これまでの協定締結数を勘案し、目標を設定しています。	—

分類		No.	主な御意見・議論等	考え方（案）	資料30 反映箇所
災害に強く安心して暮らせるまちづくり 政策1	211 指標	29	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主防災組織は、結成率が高くても活動しなければ意味がない。結成後の活動を示す指標が入っていればなお良い。</li> <li>・活動量を数字で示すことが難しいのは理解しており、結成率100%を目指せば、活動している組織が必然的に多くなっていくだろう、ということであれば、今の段階の目標としては、妥当であると思う。</li> </ul>	自主防災組織は、結成ではなく活動することに意味があるとの御意見については、市としても同様の考えを持っています。目標値については、今後、より望ましい指標設定が行えるよう、数値把握に努めます。	—
	212 施策	30	洪水ハザードマップによると、洪水被害が想定される地域がある。水害時の避難所の確保や想定外の状況への対応などに、触れる必要があるのではないかと。	水害時に限らず災害発生時には、避難所確保や想定外の状況への対応が重要であると認識しています。水害を含む「さまざまな危機事象」に対する危機管理体制の強化及び地域防災力・減災力の向上が必要であり、施策212では、「地域防災力・減災力の向上」として触れています。	—
		31	ハザードマップなどは作るだけでなく、市民に使ってもらうことが重要であり、小学校の授業で使うなど、認知度を深める取組が必要ではないかと。	ハザードマップなどの認知度を深める必要性は理解しており、地域や学校などにおける出前講座などで啓発を進めています。施策212では、市民への意識啓発などによる、地域防災力・減災力の向上に向けた取組を示しています。	—
		32	自主防災組織が結成されているが、高齢化が進む中で、高齢者への対応など、現実的な対応力をつけていく、というようなことにも触れる必要があるのではないかと。	高齢者への対応は、施策331「地域福祉の推進」の中で、「災害時要援護者への支援」という文言に含まれます。また、現実的な対応力としては、地域の状況に応じた共助の取組が重要であると考え、施策212の「地域が主体となった講座や訓練などの取組」を進めることで、地域の状況に応じた対応力の充実が図られると考えます。	—



分類		No.	主な御意見・議論等	考え方（案）	資料30 反映箇所
災害に強く まちづくり 政策1 安心して暮らせ	212 施策	33	高齢化社会では高齢者が災害弱者である一方、戦力でもある。高齢者の力を活用していくことや高齢者に対する期待についても触れていただきたい。 また、担い手の育成に苦勞しており、若い人々の力を活用することが必要である。災害発生時には中高生等も戦力になるという点にも、触れるべきではないか。	高齢者や若者などさまざまな世代の知識や経験の活用、地域活動の担い手育成は地域防災力の向上のみならず、地域福祉など、地域が担うさまざまな機能の向上に資するものであることから、政策1-2の現状と課題を修正します。	P.5 現状と課題
	213 指標	34	消防団がない地域もあったと思うが、市内全域にないものを指標に挙げるのは疑問である。	9つの分団で構成される消防団は、分団の詰所がない地域でも、いずれかの分団が管轄しており、市内全域が活動範囲となっています。消防団員数の増加は、市域全体の消防体制の充実を測る指標の一つであると考えます。	—
犯罪を許さない まちづくり 政策2	221 施策	35	・地域の見守り活動を高齢者が担っているが、毎日の活動に疲弊している。若い世代も参加しにくく、高齢者に頼っている状況にあるが、どのような支援を考えているのか。 ・若い人が見守り活動などに参加してもらえるような啓発などに取り組むべき。	施策221「防犯力の向上」では、防犯講座や広報活動について示しており、若い世代への取組も想定しています。	—
	221 指標	36	・受講者数というものを指標に設定するのはどうか。支援や取組に関する指標の方がわかりやすいのではないか。 ・防犯の目的は犯罪を減らし、消費者被害を減らすということ。 ・防犯講習会への参加が、100人程度増えてもそれほど大きな効果はなく、10年後の目標にすることの効果は薄いと感じる。分かりやすく、市民の当事者意識も高まると思われる犯罪発生件数とすべきではないか。 ・意識指標は「安心」の指標である。防犯は、実際に犯罪が減っているという「安全」を指標にするべきではないか。 ・個別計画でも刑法犯の認知件数という指標が示されている。	市は啓発による防犯意識向上や防犯カメラの設置などによる見守りの強化など、犯罪が発生しにくい環境の整備に取り組んでいます。犯罪認知件数はわかりやすい指標であると考えますが、市の取組以外にも、警察の取組などの影響を大きく受ける指標であるため、市の取組の成果を測る指標として示すことは困難と考えます。 市民の防犯意識と地域防犯力の向上を測るため、防犯講座は重要な取組と考えており、より多くの市民の参加を目指し、目標値を修正します。	P.10 指標221

分類	No.	主な御意見・議論等	考え方（案）	資料30 反映箇所
犯罪を許さないまちづくり 政策2	221 指標	37 犯罪認知件数は、市の取組以外の影響が大きいなど、指標として設定が困難であることは理解した。しかし、防犯講座の受講者という指標は、漠然として見える。もう少し安全の向上に直結するような目標を設定できないか。	地域防犯において、安全の向上を図るには、自助、共助が重要です。 市民一人ひとりの意識の向上（自助）や地域の防犯活動の維持、活性化（共助）に向けては、防犯講座による啓発や活動支援が必要であるため、指標として設定しています。 共助の観点では、防犯協議会などの取組が一定進んでいる状況にあり、指標として示すことが困難と考えます。	—
		38 市民感覚でいうと、市民の防犯意識の高まりは受講者数ではなく、市民意識調査が一番見合っているのではないか。	「治安が良いと感じる市民の割合」は市民意識指標としており、施策指標と市民意識指標を併せて評価に活用することを想定しています。	—
	222 指標	39 受講者数というものを指標に設定するのはどうか。支援や取組に関する指標の方がわかりやすいのではないか。	消費者意識の向上を目的とした支援や取組として、消費者向けの講座を開催しており、消費者意識の高い市民が増えることを目指しています。	—

### 大綱3【福祉・健康】

高齢者の暮らしを支えるまちづくり 政策1	312 指標	40 <ul style="list-style-type: none"> <li>「要介護・要支援の認定を受けている75歳以上の高齢者の割合」と「認知症サポーターの累計養成数」の2つが地域包括ケアシステムの構築度を測る指標とは感じられない。</li> <li>地域包括ケアシステムの構築度を測る指標として、例えば地域包括支援センターの評価事業、といった指標があっても良いのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在策定中の第7期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画において、地域包括ケアシステムの構築の概念が、施策レベルよりも大きな政策レベルに変更。それに伴い、政策を整理。現状と課題の記述を修正し、施策312の名称を「暮らしを支える支援体制の充実」に変更します。指標311を「高齢者生きがい活動センターの年間利用者数」に変更します。</li> <li>311から313の指標はすべて、地域包括ケアシステムの構築度を測るものになりますが、挙げている指標だけで施策の取組の成果や進捗状況が確認できるわけではないため、行政評価の際には、指標以外の観点からも評価を行います。</li> <li>地域包括支援センターの評価事業は、各センターが、着実に業務が遂行できているかチェックする業務評価であるため、施策指標にはなじまないと考えます。</li> </ul>	<p>P.11 現状と課題</p> <p>P.12 施策312 指標311</p>
-------------------------	-----------	---	--	---

分類		No.	主な御意見・議論等	考え方（案）	資料30 反映箇所
高齢者の暮らしを支えるまちづくり 政策1	312 指標	41	「要介護・要支援の認定を受けている75歳以上の高齢者の割合」の現状値34.4%はどのような位置にあるのか。また、目標値を32%とした根拠は何か。	現状値34.4%は、全国平均である目標値32%を上回っています。吹田市の後期高齢者人口の割合は、全国平均を少し下回っているにも関わらず、要介護・要支援の認定を受けている後期高齢者の割合は全国平均を上回っている状況です。今後、介護予防に向けた取組を推進していき、まずは全国平均までに引き下げること为目标に設定しています。	—
		42	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症サポーターの養成数を累計としている理由は何か。</li> <li>必然的に増えていくような累計養成数を指標とすることは妥当なのか。</li> </ul>	認知症サポーターの養成は国を挙げて各市町村で取組を進めているものです。認知症に対する理解が進んだ地域は、高齢者や地域福祉のことについても理解が深まるものと考えられるため、認知症サポーターの増加は、高齢者の暮らしを見守り支え合える地域づくりの一つの大きなバロメーターになるもの。まずは認知症について学んでいただいた市民を確実に積み上げていく必要があると考え、累計としています。	—
障がい者の暮らしを支えるまちづくり 政策2	321 指標	43	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループホームのような住まいの場を確保することは非常に難しいと思うが、公営住宅も含めたグループホームの整備を促進するというような政策にはなっていないのか。利用者数を倍増させるという高い目標を掲げているが、具体的な内容が分からない。</li> <li>グループホームの利用者数を増やすためには、障がいに対する理解を進めなければならない。そうした理解を進める方法も指標にすべき。利用者を増やす、というだけでは違和感がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループホームは障がい者が地域で暮らしていくために有効なサービスであり、その整備を促進することは重要であると認識しています。グループホームの運営費補助など、具体的な支援の内容は個別計画に示します。</li> <li>障がいに対する理解の促進や差別解消に向けた取組の推進は重要であると認識しており、施策322において、啓発などに取り組むことを示しています。障害者差別解消法の施行なども踏まえ、啓発活動や相談活動の充実を図ることを検討している段階であり、現時点では障がいに対する理解を進める方法を指標に示すことは困難と考えます。</li> </ul>	—
	322 指標	44	障がい者の自立に向けては工賃の向上は非常に大事なことであると考え、目標値の達成に向けた取組の見通しはあるのか。	目標達成に向けた取組の見通しについては、「障害者優先調達推進法」に基づき、市が積極的に障がい福祉事業所等の製品の購入や役務の発注を行うとともに、授産製品常設展示販売店を通して、授産製品の販売、市民への授産製品の紹介、共同受注による販路拡大への支援を図るなどにより、工賃の向上を図っていく必要があると考えています。	—

分類		No.	主な御意見・議論等	考え方（案）	資料30 反映箇所
地域での暮らしを支えるまちづくり 政策3	331 施策	45	災害時要援護者への支援が適切に行える体制づくりとあるが、今後どのような形で支援や体制づくりを進めていくのかが見えてこない。非常に重要なことであるため、もう少し具体的に記述できないか。	災害発生時に災害時要援護者への支援を適切に行うためには、地域住民、自治会及び福祉団体など関係機関と連携し、支援体制を構築していくことが重要であり、施策331の本文に「地域住民や関係機関と連携し、」を追記します。	P.16 施策331
		46	自身での金銭管理が困難な障がい者等に対する権利擁護の取組が重要であるため、そのような内容を盛り込めないか。	自身での金銭管理が困難な障がい者等に対する権利擁護の取組については、施策331の本文「地域福祉を担う団体に対し、人材育成や活動の場の確保などに向けた支援」に含めて表現しています。成年後見制度などの具体的な事業については、個別計画で示します。	—
	331 指標	47	小地域ネットワークの活動の延べ参加人数といったものを指標にするのは疑問に思う。例えば毎回来る人は同じでは意味がなく、本当に困っている人にどうやって手を差し伸べるかということの方が重要ではないか。要は、量より質を精査すべき。	地域福祉の推進を質的に測ることのできる指標の設定は困難と考えます。 地域福祉の推進においては、まずは、住民同士の交流の促進が重要であると考えています。お互いの顔の見える関係が広がっていくことで、地域での助け合いや支え合いに繋がっていくことを想定し、活動量を把握できる「小地域ネットワーク活動の延べ参加者数」を指標に設定しています。	—
	個別 計画	48	関連する主な個別計画には、高齢者の計画や障がい者の計画も挙げるべきではないのか。	資料14のとおり、基本計画（素案）に反映します。	P.14・P.16 関連する主な個別計画
健康・医療のまちづくり 政策4	現状と課題	49	「生活習慣病などの増加が問題」という記述だけでは抽象的すぎる。2人に1人ががんで亡くなる時代であり、国でもがん対策に力を入れている現状がある。日本人の死因の多くを占めるがんについて触れるなど、より具体的な記述にすべき。	御意見を踏まえ、以下のとおり「現状と課題」の文章を修正します。  わが国は世界有数の長寿国となっています。一方で、 <u>がんや循環器疾患などの生活習慣病の増加が深刻化しており、これらの疾病は生命を奪うだけでなく、身体の機能や生活の質を低下させることなどから、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間である健康寿命を伸ばすことが重要です。</u>	P.17 現状と課題

分類		No.	主な御意見・議論等	考え方（案）	資料30 反映箇所
	341 施策	50	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康づくりの自主的な地域活動の活性化への支援が必要ではないのか。</li> <li>施策に書かれているのは、市民の健康づくりを支援するための意識向上や検診サービスなど周辺の取組の充実策。活動そのものを後押しするような記述が読み取りにくいので、表現を検討できないか。</li> </ul>	市民が主体的に健康づくりに取り組むためには、地域での積極的な健康づくりの取組への支援が重要であると認識しています。 施策341の本文に「地域での健康づくり活動への支援」を追記します。	P.18 施策341
健康・医療のまちづくり	341 指標	51	<ul style="list-style-type: none"> <li>「健康寿命」と「生活習慣改善に取り組む市民の割合」は、市が直接的に向上させていけないものではない。それよりも、健康寿命の延伸のために何をするか、ということを経験とする方が適切ではないか。</li> <li>総合計画の指標としては、特定健康診査の受診率などが一般的ではないか。</li> </ul>	御意見を踏まえ、指標341「健康寿命」を削除し、健康寿命の延伸に向けた取組がわかるものとして、「特定健康診査（吹田市国保健康診査）の受診率」を指標341に設定します。 健康寿命の延伸を実現することは重要であると認識しており、方向性は基本構想（素案）の施策の大綱、基本計画（素案）の政策3-4の目標に記述しています。	P.18 指標341
	341 施策・ 指標	52	<ul style="list-style-type: none"> <li>施策341に母子保健に関する記述があるのに、指標が設定されていないことは疑問。子育て支援や保護者の支援について、指標を示すことが難しいのであれば、施策のところ、どのような取組をしているのか挙げてもらった方が良さそう。吹田版ネウボラの構築という注目されている取組もある。</li> <li>施策の中身と指標と、どちらかに限定せず、母子の健康の維持増進という観点をさらに盛り込むという方向で考えられないか。</li> </ul>	妊娠・出産や子育ての切れ目ない支援体制をつくるためには、これまでの母子保健に関する取組の推進に加え、妊娠・出産・子育てにおける様々なニーズに応じた相談支援体制を充実することが重要であると考えており、施策341の本文に「妊産婦や乳幼児の健康管理などの支援の充実に取り組むとともに、」を追記します。 母子保健・子育てに関する指標については、子育て支援との連携を図る観点から、指標413「生後4か月までの乳児がいる家庭に対し保健師、民生委員・児童委員などが訪問し面談を行った割合」が関連する指標であると考えます。	P.18 施策341
	342 施策	53	「医療イノベーション」という言葉は、市民に意味が伝わりにくいと感ずる。施策の本文に説明を入れる、もしくは用語集に解説を入れることはできないか。	巻末の用語集に記載します。 「医薬品や医療機器等をはじめとする最先端の医療技術の実用化など、医療分野における革新的で新しい価値を創り出すこと。」	—

分類		No.	主な御意見・議論等	考え方（案）	資料30 反映箇所
健康・医療のまちづくり 政策4	342 343 指標	54	<p>施策の成果を測れるものかを考えた場合、「健都での健康づくりのためのプログラムの年間実施件数」と「地域医療推進に関する講演会等の累計参加者数」が指標としてふさわしいものか疑問。どちらも0から始まるのであれば、この指標に拘らずとも、今後こういった取組を進めていく、といった方向性でも良いのではないかと。</p>	<p>今後の取組の方向性は施策に記述し、より具体的な取組については個別計画で示します。</p> <p>健都における健康づくりの取組については、各事業主体や地域の医療関係者等とともに、今後の展開を検討している段階であり、現段階ではその他に指標を設定することは困難と考えます。</p> <p>なお、指標342については、内容がよりわかりやすくなるよう指標名を修正します。</p> <p>地域医療体制の充実においては、診療所と病院や病院間の連携の促進、救急医療体制の確保に向けた取組なども重要ですが、その多くは市の権限だけで進められるものでないこと、加えて数値として示すことが困難。本市としては、今後の医療ニーズの変化に対応し、患者の状態像に応じて必要な医療が提供されるよう、医療機能の分化・連携の推進に向け、かかりつけ医の定着促進や在宅医療の推進に向けた市民啓発に力を入れていくため、指標343「地域医療推進に関する講演会等の参加者数（累計）」を設定しています。</p>	P.18 指標342
	343 施策	55	<p>「在宅医療の推進」という記述だけでは抽象的すぎる。</p> <p>政策3-1 高齢福祉にも関連するが、今後、吹田市においても数千人単位で在宅医療の対象が増えると見込まれている。在宅医療ができる体制を整えていくことがわかるよう具体的な記述にすべき。</p>	<p>御意見を踏まえ、以下のとおり「施策」の文章を修正します。</p> <p>「施策3-1-2」 また、住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、身近なところでの相談・支援や在宅生活を支援するサービスの充実を図るとともに、在宅医療と介護の連携を進めるなど、地域全体で支え合う体制づくりを進めます。</p> <p>「施策3-4-3」 市民が必要なときに適切な医療を受けられるよう、身近なかかりつけ医と市民病院などの地域の中核的な医療機関との連携の促進や、在宅医療推進のための環境づくり、救急医療体制の確保など、地域医療体制の充実を図ります。</p>	P.12 施策312  P.18 施策343

分類		No.	主な御意見・議論等	考え方（案）	資料30 反映箇所
大綱3 全体	指標	56	大綱3に関しては、参考資料12「基本計画に関連する主な個別計画の指標値一覧」に、 「市内道路のバリアフリー化率」、	「市内道路のバリアフリー化率」については、621の指標に「バリアフリー重点整備地区内の主要な生活関連経路などの整備延長」を挙げており、バリアフリー化の推進に向けた方向性を示しています。	—
		57	「認知症地域支援推進員」、	「認知症地域支援推進員」は、平成26年度の介護保険制度改正に伴い、平成30年4月までに全市町村に配置が義務付けられているものであり、本市においては、すでに人員を配置済みです。今後は、地域の支援機関をつなぐコーディネーターとして、関係機関との連携強化のための取組を推進する方向で考えていることから、人員増をめざすという考えとしては、施策指標にはなじまないものと考えます。	
		58	「生活支援コーディネーター配置数」、	同様に、「生活支援コーディネーター」についても、広域型生活支援コーディネーターを配置済みであるため、指標には設定していません。なお、個別計画における全市域担当を1人、サービス整備圏域ごとに各1人を配置するという方針は変更しています。今後は、広域型生活支援コーディネーターが、コミュニティソーシャルワーカーなどの既存の担い手と連携することにより、各地域における生活支援体制の整備と高齢者を支え合えあう地域づくりを推進していく方向で考えていることから、人員増をめざすという考えとしては、施策指標にはなじまないものと考えます。	
		59	「グループホーム供給数」が示されている。 このような指標を設定するほうが、市の姿勢が市民に伝わりやすいのではないか。	住宅マスタープランに定める「グループホーム供給数」については、主に市営住宅をはじめとする公的賃貸住宅を活用した直接供給を想定した指標となっていますが、消防法や建築基準法の改正に伴い、公的賃貸住宅による直接供給が厳しい状況となっています。今後は、土地所有者が新規に建設した建物をグループホーム事業者へ賃貸する「建て貸し方式」の検討やサービス提供事業者の参入を促進していくなど、これまで以上に民間事業者との連携により、利用者の増加を図る必要があるため、利用者数を指標に設定しています。	

分類	No.	主な御意見・議論等	考え方（案）	資料30 反映箇所	
<b>大綱4【子育て・学び】</b>					
子育てしやす すくまじく つくる 政策1	大綱4 全体	60	文部科学省において、「子供」の表記が統一されたが、漢字表記はどうするのか。	「子供」に統一します。	表記を全体に わり修正 (固有名詞除 く)。
	現状と 課題	61	保育ニーズの高まりは、「子どもを預けて働きたい」という個人的な思いのみではなく、女性活躍の社会の要請も背景にあるため、「子どもを預けて働きたいといった」の文言は不要では。	現状と課題本文「子供を預けて働きたいといった」を削除します。	P.19 現状と課題
	411 施策・ 指標	62	<ul style="list-style-type: none"> <li>待機児童数の指標のみではなく、質の高い教育・保育の内容に関する指標も必要ではないか。</li> <li>保育の質の観点からは、保育士のキャリアアップ研修のように、保育士の質をあげることを目標とした方が、保護者としては安心では。</li> <li>吹田市がどういう教育・保育を目指しているのかが見えてこない。</li> </ul>	指標411について、保育士のキャリアアップ研修については、平成30年度以降に制度が開始されるため、現時点においては指標として設定するのは困難です。施策411の本文に「子供一人ひとりのすこやかな育ちを保障する」の文言を追加します。	P.20 施策411
	411 指標	63	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育所の待機児童数は、すぐに解消してほしい内容であり、10年かけて達成する目標ではないのでは。</li> <li>待機児童が減少すると、子育て世帯の転入が予想されることから、待機児童数をゼロにするのは現実的に不可能では。</li> </ul>	待機児童アクションプランで平成31年4月には待機児童の解消を目標としていますが、保育ニーズが今後も高まることを想定し、待機児童解消後も継続的に待機児童を発生させないことを目標としているため、指標として設定しています。	—



分類		No.	主な御意見・議論等	考え方（案）	資料30 反映箇所
子育てしやす くまちな ら政策1	412 施策	64	「親が孤立しない」という子育て支援の目的について、書き込みが必要では。	施策412の本文「妊娠・出産・子育て期にわたる保護者の負担や不安を軽減するため、育児教室や子育て相談、一時預かりなど、地域での子育て支援を切れ目なく行うとともに、子育てに関する情報を積極的に発信し、保護者が必要とする子育て支援サービスにつなげます。」に修正します。	P.20 施策412
		65	妊娠・出産・子育て期における切れ目のない支援について、触れておく必要があるのでは。		
	412 指標	66	保護者が身近な施設で子育てに関する相談ができることが必要であることから、「子育て支援コンシェルジュの窓口の設置箇所」を指標にしてはどうか。	子育てコンシェルジュの窓口は今後、現状の2か所から3か所に増設を検討していますが、市民にとって身近な相談窓口として気軽に利用されていることを測る指標として「子育てコンシェルジュの年間利用者数」を設定しています。	—
	413 施策	67	「発達に課題のある」という表現は適切か。	「発達に支援を必要とする子供」に修正します。	P.20 施策413
		68	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本当に支援が必要な子どもたちを救うためには、行政だけでなく、地域の目が重要である。地域との連携についても文言に加えるべき。</li> <li>・ひとり親家庭についての指標が挙げられているが、ひとり親家庭にしか支援をしないと限定的に受け取られないよう、施策本文に支援の対象を示すべき。</li> </ul>	施策413の本文に「関係機関や地域と連携しながら、個々の状況に応じた支援の充実」の文言を追加します。	P.20 施策413
		69	児童養護施設についての記載も加えるべき。	児童養護施設は、都道府県の管轄であるため、記載しません。	—

分類	No.	主な御意見・議論等	考え方（案）	資料30 反映箇所
子育てしめす 政策1 すまじつくり	413 指標	70 指標に主語がないため、わかりにくい。	指標413「生後4か月までの乳児がいる家庭に対し保健師、民生委員・児童委員などが訪問し面談を行った割合」に指標名を修正します。	P.20 指標413
		71 生後4か月までの乳児がいる家庭に訪問し面談を行った割合について、目標値が100%ではないのはなぜか。	民生委員・児童委員に依頼している家庭訪問に加えて、保健センターの新生児訪問も行っていますが、留守や表札のない家庭、オートロックなどの理由で面談が行えないという現状があります。目標値を100%とするのは、このような実態から困難であり、実現可能な数値を設定しています。	—
		72 【「ひとり親家庭相談」における就業相談の利用により就業につながったひとり親の人数】 ・ひとり親に限らず、経済的困窮家庭を含めた指標にしたほうがいいのでは。 ・ひとり親の人数に対してあまりにも少ないように感じるため、就業率等も検討しては。今後取り組んでいく内容については積極的な姿勢が見える記載をすべき。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひとり親に限らない生活困窮家庭で、子供がいる家庭を併せて把握するのは困難です。</li> <li>・平成29年7月から就業支援専門員を配置し、支援を必要とするより多くの人に対して就業支援を行えるよう取り組むことから、就業につなげた人数の増加をめざしているため、就業率ではなく人数を指標として設定しています。</li> </ul>	—
		73 子供の貧困について、親に対する支援だけでなく、子供に対する支援についても指標として示すべき。	子供の貧困に対する支援の重要性は認識していますが、子供の貧困のケースを減らすことも重要であることから、指標413においては、子供の生活環境を改善することにつながる就業支援を指標として設定しています。	—

分類		No.	主な御意見・議論等	考え方（案）	資料30 反映箇所
学校教育の充実したまちづくり 政策2	目標	74	「生き抜く」の表現は、勝ち組、負け組や競争社会といったものを想像させる。子供のところは希望のある文章にしたほうがいいのでは。 （新しい時代を「自分らしく生きる」という表現など）	「生きる力の確実な育成」という意味合いで本市においても教育ビジョンに使用しています。	—
	現状と課題・施策	75	学習指導要領が改訂され、これまでの教育に加えて、学びに向かう力やそれを活用できる人間性が必要とされている。その点を示しておくべき。	新学習指導要領で追加された「学んだことを人生や社会に活かす」など、これからの時代に求められている内容を追加します。	P.21 現状と課題 P.22 施策421
	421 施策	76	現状と課題にICT教育が述べられているので、施策本文でもその取組の記載をするべき。	ICT教育の文言を追加します。	P.22 施策421
		77	・いじめや不登校をひとまとめに表現すると、不登校も否定されているように受け取られるため、表現を工夫するべき。 ・不登校になった時にどう対応をするのか。親も孤立するケースも多いため、相談先など不登校になった際の受け皿についてどこかで触れておく必要があるのでは。	「いじめや不登校などに悩む子供たち一人ひとりに対応する体制」に文言を修正します。	P.22 施策421
421 指標	78	【中学1年生の不登校出現率】 ・不登校出現率についての指標は、不登校が悪いことのように思える。	指標421においては、いじめや不登校にならないためには児童・生徒が学校を楽しんでいることが重要であるため、「学校へ行くのが楽しいと感じる小中学生の割合」に変更します。	P.22 指標421	

分類		No.	主な御意見・議論等	考え方（案）	資料30 反映箇所
学校教育の充実したまちづくり 政策2	421 指標	79	【英検3級程度の英語力を有する中学3年生の割合】 ・英語に限定した指標ではなく、新しい学力観にふさわしい指標を設定すべき。 ・吹田市は学校に行く子供が良くて、英語ができる子供を目指しますと読みとってしまい、指標として夢がなく殺風景。	新しい学力観においては、学習したことを人生や社会に役立てることのできる力を養うことを目指していることから、「授業で学習したことが将来社会に出た時に役に立つと思う小中学生の割合」に変更します。	P.22 指標421
	422 指標	80	学校教育環境の整備に関する指標について、現状値の年度がH29年度となっている。	H29年度→H28年度の数値に修正します。	P.22 指標422
青少年がすこやかに育つまちづくり 政策3	431 施策	81	・青少年施設主催イベントの参加者数について、子供たちが運営側になって主体的に行っているイベント、子供自身がやりたいとってそれをサポートしている事業があるはずで、それについての指標があってもいいのでは。 ・子供が自主的に企画運営している活動について大人が支援していることにも触れておくべき。	「青少年の仲間づくりや主体的な活動を支援するため、さまざまな体験・活動の機会を提供します。」とし、下線部の文言を追加します。	P.24 施策431
	431 指標	82	地域や学校などと連携している内容を指標にしてはどうか。	指標431（青少年指導者講習会の年間受講者数） 青少年指導者講習会は、地域での見守りや指導を行うために必要とされる内容について講習を行っています。地域との連携を深めるためには、このような啓発が重要であることから、指標として設定しています。 指標431（青少年施設主催イベント・講座などの年間参加者数） 青少年に居場所を提供し、さまざまな体験活動を通じて他の青少年と交流することが、青少年の成長に役立つことから、より多くの青少年が集まるよう、活動内容の充実を図ることを目標としているため、指標として設定しています。	—

分類		No.	主な御意見・議論等	考え方（案）	資料30 反映箇所
青少年がすこやかに育つまちづくり 政策3	432 施策・ 指標	83	【太陽の広場などの年間参加者数】 ・吹田市の資源としてある子どもの居場所については、地域によって充実の度合いが異なる。参加者数だけではなく、これに対して、フレキシブルに対応していく姿勢が見える指標にはならないか。 ・「地域の実態に応じて」「実情に応じて」という文言を加えてはどうか。	地域によって異なる充実度に対応していくことについては、施策432本文において、「地域の実情に応じて」の文言を施策に追加し、指標432については、体験活動している子どもの数を市全体として設定します。	P.24 施策432
	432 指標	84	【留守家庭児童育成室の利用者数】 利用者数ではなく受入数の方が施策の内容に合っているのでは。	受入児童数に変更します。	P.24 指標432
生涯にわたる学びのまちづくり 政策4	441 施策	85	中央図書館の建替えや再整備について盛り込むことはできないか。	中央図書館の再整備については課題として認識していますが、現段階では総合計画に盛り込むことは困難です。	—
		86	いろいろな技術や知識をもった市民の力を活かすことや、そうした力を発揮できる場をつくることについても施策本文に入れていただきたい。	「地域の人材の活用」を施策本文に追加します。	P.26 施策441
	442 施策	87	公民館などで行う講座の講師を公募するなど、広く人材活用を図ることが必要では。	公民館などで行われている講座の講師については、各地域の公民館の企画運営会議において地域の実情に応じた形で運営してもらっています。現在、講師の公募は行われていませんが、市民ニーズに合わせた運営がすすめられるよう取り組む予定です。	—
		88	公民館の老朽化が進んでおり、高齢者にやさしい施設にすることについて盛り込むべき。	公共施設の最適化計画において、示しています。	—

分類	No.	主な御意見・議論等	考え方（案）	資料30 反映箇所
<b>大綱5【環境】</b>				
環境先進都市のまちづくり 政策1	511 指標	89  ・現状値と目標値の達成度はどの程度なのか、施策指標から達成の難易度が市民に伝わりやすくなるか。 ・現状と課題について、十分わかりやすいと思うが、よりわかりやすく配慮できる部分があれば、検討を。	施策指標については、個別計画なども踏まえて設定しており、詳細は個別計画で示します。また、総合計画においても指標の考え方、積算などをできる限りわかりやすく示す予定です（資料8）。 なお、現状と課題においては、市域のエネルギー消費量に増加の兆しが見られる状況を示しており、その状況の中で、大幅削減を目指すことは、難易度の高い目標に取り組んでいると考えます。	—
	512 指標	90  ごみの排出量削減やリサイクル率の向上は重要だが、活動的な指標が入られないか。取組の結果、どう変わったかを市民は見たいのでは。  【「マイバッグ持参率」について】 ・施策指標512「マイバッグ持参率」は、他の指標との並びを見た時に異質に感じる。マイバッグという言葉は一般化されているのか。マイバッグ（エコバッグ）としたほうが良いのではないか。また、どこへの持参率なのかわからない。指標名を変更することも検討する必要があるのではないか。 ・今後、企業と市民でマイバッグ運動を行い、レジ袋の無料配布はしないという協定を北摂7市3町で結ぶことが検討されている。協定が結ばれると大きな運動になると思う。 ・新たな協定の締結により、指標の定義や、目標値の算出方法等が変わってくる可能性があるかもしれない。	ごみ排出量の削減に資する市民の行動を示す「マイバッグ持参率」を追加し、「リサイクル率」を削除します。  「マイバッグ」は、環境基本計画のほか、環境省でも使用されている用語です。御意見を踏まえ、「マイバッグの持参率」については、定義や考え方を用語集に記載します。なお、今後、新たな協定締結により、指標の定義や目標値の算出方法が変わる際には、考え方や目標値の見直しを検討します。	P.28 指標512

分類		No.	主な御意見・議論等	考え方（案）	資料30 反映箇所
環境先進都市のまちづくり 政策1	513 施策	91	「自然共生への理解」とはどのようなことか。啓発活動や情報発信などの活動指標と、その成果指標をセットにして、具体的なイメージが湧くようにできないか。	「自然共生への理解」について、生物多様性に対する普及啓発による理解などを示すものです。また、施策6-1のみどりの分野にも関連します。自然共生に係る施策指標を検討しましたが、現時点では適した指標の設定が困難です。	—
		92	市民や地域の取組がある中で、企業向けの数値提言はないのか。また、環境美化について、学校教育における環境活動などの指標を掲げるべきでは。	環境美化について、企業に対する具体的な数値目標はありませんが、環境美化推進団体として活動いただいております。また、学校とも環境教育など連携を行っていますが、施策指標として、適した指標の設定が困難です。	—
	513 指標	93	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境美化について、様々な活動があるのであれば、パッケージとして具体的な目標を示せないか。</li> <li>・511と512の指標は、妥当と考えるが、513は、啓発活動や情報発信を現状の施策指標では適切に表せていないのでは。</li> <li>・市民意識の高まりを成果とするならば、環境美化推進員の登録数のほうが良いのでは。啓発活動として良いことだが、情報発信の成果が見えるか。施策を代表する指標に見直す必要があるのでは。</li> <li>・美化活動に参加する人数が増えるなどのほうが、市民にとって理解しやすいのでは。表彰される環境美化活動の団体や、活動に参加、登録する人数が増えていくことが、環境に対する意識改革のうえで価値があるのでは。</li> </ul>	<p>様々な美化活動が行われる中で、それらを担う環境美化推進団体の活動がより多くの地域に広がることは、きれいなまちや市民への啓発の機会が増えることから、市民の環境美化意識の向上につながるものと考えます。また、団体ごとに活動地域が定められているため、団体を増やすことが、市域全体への広がりにつながると考え、指標513「環境美化推進重点地区の指定数」を「環境美化推進団体の団体数」に修正します。</p> <p>なお、団体を構成する環境美化推進員を指標とすることは、団体によって5人から800人以上と、推進員数に大きな差があることから目標値を設定することが困難と考えます。</p>	P.28 指標513

分類	No.	主な御意見・議論等	考え方（案）	資料30 反映箇所
環境先進都市のまちづくり 政策1	513 指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苦情解決の割合について、特別委員会からの意見にもあるが、解決した割合と公害の未然防止、早期解決が、どのようにつながるのか。</li> <li>・苦情件数は、他市と比べてどうか。他市よりも数値が悪いなら、苦情件数を減らすことは妥当であり、検討するべき。</li> <li>・前もって苦情が起こらないようにする取組が、開発の抑制に必ずしもつながらないのでは。市の工夫により発生件数が減る可能性があり、検討する必要があるのでは。</li> <li>・公害解決は個別計画の評価で十分見ることができる。総合計画に掲げる指標として、513の施策を虚心坦懐に読み、既存のデータから、適切な指標を再構成する必要があるのでは。</li> </ul>	<p>公害の未然防止については、事業者に対し、条例に基づいた事前協議などによる環境配慮、住民への周知徹底を、一定、行っている状況です。そのような中、事業者が規制基準を順守して開発等を行っている場合でも、立地条件や生活環境等により苦情につながるケースが多く見られます。そのため、事業者及び住民との調整を図るなど、個々の状況に応じて早期に苦情解決を行うことが、重要であると考えられるため、苦情を解決した割合を指標として設定。</p>	—
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・公害解決の割合について、様々な要因により、苦情発生件数の削減を目標とすることが困難であることは理解した。</li> <li>・公害の早期解決について、「早期」の部分を指標として示すことはできないか。</li> <li>・早期解決を表すデータが出せるのであれば、検討を。</li> </ul>	<p>苦情件数は台帳管理しているが、苦情解決に要した期間の再集計が必要です。 また、事業者の活動内容や対応方法などが様々ある中、「早期」の基準を一律に示すことは困難です。 以上のことから、指標として示すことは困難ですが、施策513にて早期解決に取り組むことを示します。</p>	—



分類	No.	主な御意見・議論等	考え方（案）	資料30 反映箇所	
<b>大綱6【都市形成】</b>					
みどり豊かで安全・政策1 快適な都市空間づくり	611 指標	96 施策に「住民主体のまちづくり活動への支援」とあるので、具体的な活動から指標をつくることできれば市民にわかりやすいのでは。	住民主体のまちづくり活動を支援する考えから、地区整備計画等を指標としています。たとえば、地区整備計画は、住民自身が地域のまちづくりの方向性を検討する仕組みであり、地区整備計画の策定地区数が増えるほど、住民主体のまちづくりが進んでいるといえるものと考えます。	—	
	612 指標	97 本市は大阪市の衛星都市。衛星都市の一般的な課題として、今後は空き家問題が大きくなるとされている。今の転入超過がいつまでも続くわけではない。耐震化率も重要だが、その指標だけでいいのか検討を。	「空き家のうち腐朽・破損のあるものの割合」を指標に追加します。	P.30 指標612	
	613 施策	98	「地域の特性を生かした新たなみどり」とあるが、外来種が在来種に悪影響を与えるような場面もあるので、外来種が入らない仕組みづくりなども考えていただきたい。	生物多様性や防災、憩い、遊びの空間などみどりのもつ様々な側面に注力している中、外来種に関して危機感を持っていますが、現時点で施策に具体的に盛り込むことは困難と考えます。	—
		99	・防災機能の向上はみどりのどのような側面と関係するのか。 ・みどりを避難空間として活用する観点でいえば、公園の数ではなく、たとえば、所在地や避難物資の状況などから、どのように整備していくかという内容が見えれば、防災機能のためのみどりの空間であると市民にもわかりやすいのでは。	みどりの中でも公園は、防災面では都市の中の貴重な空間であると考えます。防災担当所管と連携しながら、公園の防災に関する機能の活用を図ることは重要であり、具体的には個別計画等で示します。	—
		100	公園の維持管理に関して、樹木の選定や草刈りを行う際には、そこに住む生き物の立場に立った維持管理方法も先進的に取り入れていただきたい。	みどりの保全にあたって、様々な観点から適切な維持管理に努めます。	—

分類		No.	主な御意見・議論等	考え方（案）	資料30 反映箇所
みどり豊かで安全・快適な都市空間づくり	613 施策・ 指標	101	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュータウンでは、近年、開発によりみどりの面積が減少しているが、民間の土地利用に係るみどりの比率は指標として示さないのか。</li> <li>・緑被率ではなく、開発において今あるみどりを活用してもらったり何らかの制限をかけるなどの実効性の高い対応をしていかなければ、千里ニュータウンのイメージが崩される。</li> <li>・指標が「公園などの面積」しかなく、民有地の緑化に向けた取組などが無い。</li> </ul>	<p>まとまったみどりを量的に確保していくのが困難な中、市民の身近なところでみどりを実感できるよう、市民による民有地でのみどりの創出活動を広げていくことを今後の取組の方向性の1つとして想定しており、<u>多くの地域で活動団体が増えていくことをめざし、「みどりの協定に基づく取組などを行う団体数」を追加します。</u></p>	P.30 指標613
	613 指標 (611 612 指標)	102	<p>政策6-1「みどり豊かで安全・快適な都市空間づくり」から、3つの施策は何となくイメージができるが問題は指標。まちづくりのルール、景観に関するルールは納得できる部分があり、耐震化率も妥当かと思う。みどりについては、この指標が悪いわけではないが、実際、みどりが減ってきていることがわかることが重要であり、市民がイメージできるものを検討すべき。</p>		
	613 施策・ 指標	103	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュータウンには大きな公園があるが、旧市街には遊園のような感じの公園が多い。場所によっては管理が行き届いておらず、子どもたちが遊べない状況。ボール遊びのできる公園が少ない。子どもが遊べる公園づくりを検討していただきたい。</li> <li>・市民感覚で見たときに、遊ぶ場所も含めた「みどり豊かで安全・快適な都市空間づくり」がわかるような形になるよう、既存のデータでイメージしやすいものを入れるよう検討を。</li> </ul>	<p>公園や遊園の整備・維持管理にあたっては、市民が親しみ、利用しやすい環境の維持・向上に努めます。</p>	—

分類		No.	主な御意見・議論等	考え方（案）	資料30 反映箇所
全み 空・ど 間快り政 つ適豊策 くなか1 り都で 市安	613 指標	104	施策に「情報発信や啓発などを行います」とあるの で、具体的な活動から指標をつくることできれば 市民にわかりやすいのでは。	市民によるみどりの活動を支援するため、「花とみどりの 情報センター」などで様々な情報発信や啓発等を実施して います。さらに支援を広げるため、様々な団体との連携を はじめたところであり、現時点で指標を設定するのは困難 と考えます。	—
	現状と 課題	105	現状と課題は、道路に関する内容が多いように見え るが、水道と下水道に関する記述を増やす必要はないか。	現状と課題の2段落目の「都市施設」に水道と下水道も含 み、老朽化と災害への備えという課題を示しています。	—
安全 ・ 快適な都 市を政策2 を支える基盤づくり	624 施策・ 指標	106	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通不便地域の利便性・安全性の向上に関し、市 が取組を実施したことをアピールできるような指標 を設定できないか。</li> <li>・交通不便地域が減少しているなど、一目でわかる 指標が必要では。公共交通は、市ができることと民 間企業がやることなどがあるが、市ができる範囲の もので検討を。</li> <li>・JRや阪急など多くの路線があるが故の複雑さも感 じる。道路も含めて、利便性とは何か整理が必要で はないか。市民交流という目線でも、不便というも のを考えてみては。</li> <li>・交通弱者の問題もある。総合計画では、市民から 見て吹田市ががんばっていることをアピールできる 指標を示す必要がある。</li> </ul>	市民意識指標として、「鉄道・バスなど公共交通網の便利 さに満足している市民の割合」を追加します。 施策指標については、交通不便地域の面積等を検討したも のの数値の算出が困難であること、また、現在、具体的な 対策に向けた調査等を実施する予定であることから、現段 階で具体的な指標を設定することは困難と考えます。	P.42 市民意識指標

分類		No.	主な御意見・議論等	考え方（案）	資料30 反映箇所
安全・快適な都市を支える基盤づくり 政策2	622 623 指標	107	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施策と指標のつながりを見ると、下水道は更新、長寿命化を意識しているのが指標で読み取れるが、水道は耐震化率だけで問題ないか。</li> <li>・水道、下水道は内容としては同じような内容なので、耐震化率、更新率、長寿命化率など、施策の進捗を同じような指標で測る方がわかりやすいので、データがあるなら検討を。それぞれ重点的に取り組む部分などは個別計画に書けば良い。</li> <li>・一斉に施設をつくった以上、毎年更新しても追いつかない状況にあること等は、市民にも理解してもらう必要があり、多少わかりにくくても率直にデータを示すべき。</li> </ul>	<p>水道施設及び下水道施設については、ともに老朽化対策が急務であることから、「下水道管路の更新及び長寿命化延長」に加え、「水道管路の更新延長」を指標として新たに追加します。</p> <p>また、耐震化率は、下水道施設については今後の取組を検討している段階であるため、現状は目標設定が困難である一方で、浸水被害の軽減等の取組を重点的に進めている状況であることから、「雨水排水施設の整備率（1時間に約50ミリの降雨に対応）」を指標として追加します。</p>	P.32 指標623
	624 指標	108	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車通行空間を指標の目標どおり整備すれば、自転車と歩行者の事故は改善されるのか。</li> <li>・自転車による事故が増えている中、自転車通行空間は1つの目標と感じたが、事故件数を指標に入れても良いのでは。</li> </ul>	<p>自転車が安全・快適に通行できる空間の確保に向けての今後の取組がわかりやすく示せる指標として、自転車通行空間の整備延長を設定しています。</p>	—
<b>大綱7【都市魅力】</b>					
地域経済の活性化を図るまちづくり 政策1	現状と課題	109	<p>北大阪健康医療都市（健都）に関する記述があるが、その後続く開業率や中小企業の経営基盤の強化など地域経済の活性化に関する内容とつながっていない。健都ができることによる地域経済への影響を想定しているのか。</p>	<p>現状と課題の第1段落については、産業における本市の状況について記載しています。</p>	—

分類		No.	主な御意見・議論等	考え方（案）	資料30 反映箇所
地域経済の活性化を図るまちづくり 政策1	現状と課題 ・ 711 施策	110	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別委員会から農業について触れられていないとの指摘がある。農業の状況についての認識は。</li> <li>・都市部における農地・農業のあり方が大きく変わろうとしているのであれば、そのような記述が必要なので検討するべき。</li> <li>・単に「農地のさまざまな機能の活用」とするより、例えば「食育の場」「都市農園としての活用」など簡単な例を示すとよい。</li> </ul>	近年の都市農業の動向について現状と課題に「また、都市における農地は、貴重なみどりの空間や自然とのふれあいの場などとしても役立っており、都市と調和する農業の振興が求められています。」と追記します。	P.33 現状と課題
	711 施策	111	中小企業などの経営の安定や事業拡大、創業支援について、具体策を示した方が市民がイメージしやすいのでは。	総合計画では大きな方向性を示しており、具体的な内容は個別計画に記載します。 今後、施策として実施する就労支援や職業紹介の手段については、社会経済状況の変化等に応じて柔軟な対応が可能ないように記載しておく必要があり、施策には記載しないこととします。	—
	712 施策	112	JOBナビすいたについて施策に記載するべきでは。「JOBナビすいたの知名度の向上と機能評価を図ることにより就労相談や職業紹介の充実を図る」など具体性があったほうがよい。		
	712 指標	113	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動指標と成果指標を並べることで、活動量に対して成果が上がってこない、といったことが把握できるのでは。</li> <li>・指標711は成果指標に近いが、712に関しては活動指標だけになっている。活動した成果がわかるように追加できるものがあれば、検討できないか。</li> </ul>	活動指標であっても成果指標であっても、施策の成果を実現するための取組の方向性や内容等が示せるものを設定しています。 また、就労に関する成果指標を検討しましたが、施策指標として適した指標の設定は困難です。	—

分類		No.	主な御意見・議論等	考え方（案）	資料30 反映箇所
文化・スポーツに親しめるまちづくり 政策2	現状と課題・施策	114	<ul style="list-style-type: none"> <li>内容は理解できるが、高齢者や子ども達など、それぞれの世代に向けた具体的な取組内容が書かれていても良いのでは。例えば、高齢化が進み、平均寿命が延びている、だから健康寿命のために身近な地域でスポーツができる環境が必要なんだ、といった、素直に理解できる文章表現にするべき。</li> <li>多文化共生やスポーツへの参加といったことが書かれているが、何を求めているのかの目標を明確にするべき。</li> </ul>	多文化共生とその目的について現状と課題に「また、国内外の文化交流を進めるため、都市間交流や多文化共生の視点に立ったまちづくりを進めることも重要です。」と追記します。また、スポーツについて、市としての課題や具体的な取組がわかりやすくなるよう、現状と課題を修正します。	P.35 現状と課題
	721 722 723 指標	115	<ul style="list-style-type: none"> <li>入館者数や参加者数といった指標を見て「文化やスポーツの振興が進展している」と市民が思えるのか。例えば、市民意識調査の結果を入れたほうが、市民にわかりやすくなるのでは。施策の全体像がわかる方がよいので検討のこと。</li> <li>入館者数や参加者数では現状値が妥当か市民にはわからないのでは。どうしても人数を指標とするのであれば、現状値の妥当性を示すべきでは。</li> <li>吹田市は具体的にどうしようとしているのかが一目見てわかる指標を検討できないか。</li> </ul>	市内の文化団体数や活動状況の指標化などについても検討したが、数値の把握は困難です。文化会館(メイシアター)や博物館は、文化にふれる機会や、文化活動の拠点として提供しているため、入館者数の把握は重要。スポーツにおいては、指導者育成に積極的に取り組んでおり、指標723については「社会体育リーダーなど地域におけるスポーツ指導者の延べ認定者数(累計)」を追加します。また、「地域におけるスポーツ活動などイベントへの年間参加者数」については、市民体育祭などの参加者数を含む数値に変更し、指標名を「スポーツイベントやスポーツに関する講座などへの年間参加者数」に変更します。	P.36 指標723
	721 施策	116	<ul style="list-style-type: none"> <li>「都市間の文化交流」「多文化共生の視点に立ったまちづくり」は、市民にとってわかりやすい表現か。</li> <li>例示などを入れることで印象が変わるので、検討のこと。</li> </ul>	現状と課題に、目的とともに「都市間の文化交流」「多文化共生」についての記述を追記します。また、「多文化共生」については巻末の用語集に記載します。「多文化共生：国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築きながら、地域社会の活力、構成員として共に生きていくこと。」	P.35 現状と課題

分類		No.	主な御意見・議論等	考え方（案）	資料30 反映箇所
市民が愛着をもちたいまちづくり 政策3	全体	117	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標には「市民が愛着や誇りをもって住み続けたいと思えるまちをめざす」とある一方で、施策7-3-1には「市民から本市の魅力を市内外に発信」とあるが、魅力の発信は別の話である。</li> <li>・目標と施策と施策指標のつながりがわからない。抜本的に検討するべき。</li> <li>・色々な要素が入ってきているので用語同士がどうい関連性があるのか系統立てて文章を整理しなければ、市民に伝わらない。</li> <li>・主として観光と永住であろう。一般性のある話でつなげて説明する必要がある。</li> </ul>	<p>本市のシティプロモーションの考え方は、市民にまちの魅力を知っていただき、愛着を醸成することで定住意向の向上につなげるというもの。また「魅力の発信」については、市民がまちの魅力を感じられる機会を充実させることで、本市の魅力が市民から市内外へ広がるよう仕掛けていくことを指しています。このような方針を示し、施策731との対応がわかりやすくなるよう「現状と課題」第2段落及び施策731を修正します。</p> <p>また、第3段落について、市民の愛着に向け、本市独自の強みである大学やガンバ大阪の活用が重要であることを示す内容に修正し、施策732との対応がわかりやすくなるようにしています。また、これに伴い732の施策名を修正します。</p>	P.37 現状と課題 P.38 施策731 施策732
	731 指標	118	<p>【吹田まつりへの協賛・協力団体数】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・吹田まつりの参加者数は出ないのか。吹田まつりの盛り上がりは協賛・協力団体でわかるのかは疑問。</li> <li>・参加者数がわかったとして、愛着や誇りを持って住み続けたいまち、という目標に繋がるかどうか。こうした目標であれば認識を聞かなければ仕方ないのでは。</li> </ul>	<p>吹田まつりは市民がまちの魅力を感じられる機会として重要であり、その魅力をさらに高めるためには地域の連携が進むことが必要なことから、協賛・協力団体数を指標として設定しています。</p> <p>「住み続けたいまち」の認識については政策レベル以上の指標と考えており、市民意識指標の「いま住んでいるところが気に入っているので、住み続けようと思っている市民の割合」で測ることとしています。また、施策評価では、施策指標と市民意識指標を併せて評価に活用します。</p>	—
	732 指標	119	<p>【市内でのガンバ大阪を応援するためのイベントの年間参加者数】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントの1回あたりの参加枠が決まっており、年間参加者数は伸びない。地域ぐるみでの応援のにぎわいがわかるものなど、貢献を示すことができればよい。</li> <li>・指標では伝わりにくいので、例えば施策の中に「ガンバ大阪と子どもたちとの交流の中でまちに愛着をもってもらう」など具体的な内容を文章化するほうが、市民にもわかりやすいのでは。</li> </ul>	<p>地域ぐるみでの応援の機運を高めていくことは重要な考え方であり、施策732に「地域ぐるみでの応援の機運を高めます」と追記します。</p> <p>また、ガンバ大阪と子ども達との交流の中で愛着をもってもらうための取組を実施しており、指標の参加者数には、小学生を対象としたふれあいイベントの参加者などを含みます。そのことがわかるよう、指標名を「ガンバ大阪と小学生のふれあいイベントなど応援イベントへの年間参加者数」に変更します。</p>	P.38 施策732 指標732

分類		No.	主な御意見・議論等	考え方（案）	資料30 反映箇所
市民が愛着をもてるまちづくり 政策3	732 指標	120	【大学との連携による事業やイベントなどの年間実施回数】 大学との連携が深まったことが、指標に挙げているイベントなどの年間実施回数だけでわかるのか。	大学との連携がより多くの分野の取組で進むことを想定していることから、年間実施回数を指標として設定。	—
	指標	121	「人と企業の動きがわかる指標」を設定できないか。目標値の設定は難しいかもしれないが、例えば「人」では生産年齢人口の流出割合など。また「企業」では、企業の流入のわかるものなど。	本市のシティプロモーションの直接的な目的は、移住者の増加といったことではなく、市の魅力の向上や市民の愛着を醸成することを想定しており、現時点では市民の満足度や定住意向を成果指標とするのが適当と考えます。 本市のシティプロモーションの考え方がより明確になるよう、現状と課題について「市民がまちへの愛着や誇りを持ち、「住み続けたい」「離れても戻りたい」と思えるまちに向けて」と修正します。	P.37 現状と課題
<b>大綱8【行政経営】</b>					
行政資源の効果的活用 政策1	811 指標	122	財政に関する指標は専門用語が多く、注釈を入れるなど工夫すべき。	巻末の用語解説にて対応します。	—
		123	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財政調整基金残高の目標値について、今後の歳入と歳出の動向を分析・検討した結果により挙げられた数値であるか。</li> <li>・実質収支比率がないのはどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・追加諮問する「IV. 基本計画推進のために」の中長期財政計画を踏まえて目標値等を再検討させていただく予定です。</li> </ul>	—



分類		No.	主な御意見・議論等	考え方（案）	資料30 反映箇所
行政資源の 効果的活用 政策1	812 指標	124	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共施設の最適化計画から指標を再検討すべき。</li> <li>投資的経費について、財務諸表を使いながら、経営の健全性をみることも可能ではないか。</li> </ul>	公共施設の最適化計画は、一般建築物の最適化を推進するための基本的な方針を示したものであり、数値目標については、現在策定中の一般建築物の個別施設計画完成後に設定するため、現段階では他の指標を設定するのは困難です。	—
		125	<ul style="list-style-type: none"> <li>建設事業費や維持補修費、人件費などを考慮していないとすれば、「一般建築物の個別施設計画の策定が完了した割合」で100%を目指すことは、場合によってはリスクを帯びた指標となるのでは。</li> </ul>	一般建築物の個別施設計画は各施設の現状を詳細に把握するものであり、それらをすべて把握した上で、維持補修など、施設の更新について検討していく流れであるため、当面は個別の施設の現状を計画的に把握していくことを目標としています。	—
	813 施策	126	<ul style="list-style-type: none"> <li>「現状と課題」で、人材育成と効率的な組織運営を進める必要があるという課題を捉えているのに対し、施策では「効率的な行政組織の構築」「人材育成と組織の活性化」と、組織についての記述が二分されている。その分け方と施策の記述、指標が合っているか。</li> </ul>	施策813では職員の人材育成について述べているため、わかりやすくなるよう、813の施策名を修正します。	P.40 施策813
		127	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施している研修内容が、市民に対するサービスや質の向上などを図るものであることを、市民から見てわかるように示すべき。</li> </ul>	職員研修の内容がわかりやすくなるよう、「市民対応能力や政策立案能力の向上などを目的とした」の文言を追加します。	P.40 施策813

分類		No.	主な御意見・議論等	考え方（案）	資料30 反映箇所
行政資源の効果的活用 政策1	813 指標	128	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「職員の研修満足度」は、行政資源の有効活用や行政課題の対応をみるのにふさわしい指標といえるか。</li> <li>・人材育成として、個々の能力をあげていくことを盛り込みたいのであれば、資格取得など、高度な人材がいかに増えているかというほうがイメージしやすい。</li> <li>・ラスパイレス指数や一人当たり労働生産性の指標を設定するなど、コストパフォーマンスの部分を見る必要があるのでは。</li> <li>・職員一人あたりの研修回数にしてはどうか。</li> </ul>	職員の資質向上・能力開発の取組状況を示す「職員一人当たりの年間研修受講回数」に指標を変更します。	P.40 指標813
	814 施策	129	現状と課題でICTによる市民サービスの向上や行政運営の効率化について書かれているのに対し、施策814においては市民の利便性向上しか書かれていない。	「市民の利便性の向上や行政運営の効率化を図るため、ICTの利活用を進めます。」に修正します。	P.40 施策814
	その他	130	限られた制約の中で人、お金、建物といった既存の経営資源を効率的に活用するために「ICTの利活用」の施策がつながる。施策の構成を再検討してはどうか。	施策813から814に順序を変更し、現状と課題の記載内容の順序も併せて修正します。	P.39 現状と課題 P.40 施策814